

# GYOSEI NO MADDO

## 水産庁施策情報誌 漁政の窓 2019.9 vol.166

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1合同庁舎1号館 代表 03-3502-8111 (内線6505) URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>



こども霞が関見学デー  
(令和元年 8月7日～8日、農林水産省内)

### CONTENTS

#### こども霞が関見学デー

■ ギョーさん、おさかなを知ろう .....	2
■ 世界に一つだけの水槽をデザインしよう / ■ 水産加工品を知ろう！ .....	3
■ クジラについて学ぼう！ / ■ 令和はアナゴで！ / ■ 漁業取締官になろう！ .....	4
■ 知って応援しよう！ 福島の漁業 .....	5
■ クイズとペーパークラフトで魚を学ぼう！ / ■ 真珠を使ったイベント .....	6
■ 錦鯉について学ぼう！ / ■ 漁村に行こう！ 漁村に泊まろう！ .....	7
■ 復興マルシェ .....	8
編集後記 .....	8

# こども霞が関見学デー

8月7日（水）及び8日（木）に、毎年恒例の「こども霞が関見学デー」を実施しました。

「こども霞が関見学デー」は、文部科学省をはじめとした府省庁等が連携して、業務説明や省内見学などを行うことにより、親子のふれあいを深め、子ども達が夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、府省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的として、平成12年度から実施しています。

嬉しいことに、参加府省庁の中でも特に水産庁のイベントは楽しくて面白いとの評判をいただいていることから、各イベント担当者は趣向を凝らしたイベントを企画しました。

また、これまで当イベントは小さなお子様連れが多いにも関わらず、十分な椅子や休憩室を用意できていませんでした。そこで、今回は「ホスピタリティ（過ごしやすさ）」を重視しようと考え、廊下に椅子を大量に配置するほか、ベビーカー置き場、休憩室、授乳室や救護室を準備しました。

さらに、イベント部屋でなくても廊下でも楽しい様に、魚のシールで魚群を作ったり、風船で魚を作るなど、いわゆる「映える」飾り付けをしたほか、さかなクンのポスター、子ども達に描いて貰った絵や魚図鑑などを子ども達の目線に合わせた高さで展示するなど工夫を凝らしました。

これらの努力もあり、2日間の農林水産省の参加者数は過去最高記録の7,973人で、7年連続、参加府省庁中1位となりました。たくさんの御来場ありがとうございました。

各イベントの様子は以下のとおりです。

## ■ ギョーさん、おさかなを知ろう！

2日目の8日（木）に、今年もお魚大使の「さかなクン」によるお魚講座を開催しました。

例年参加者数50名限定で行っていましたが、今年は大きなお部屋が確保できたことから80名まで拡充したところ、約700名の応募があり、高倍率の抽選から選ばれた子ども達がイベントに参加することが出来ました。

応募はがきには魚やさかなクンへの愛が語られているものや魚の絵を描いているものが多く、全てに目を通させていただきました。

今年は「夏が旬の魚」をテーマに、さかなクンが描いたイラストを交えたクイズを行いました。さかなクンが出題したクイズの中には難しいものもあり、子ども達は苦戦しつつも、元気よく手を挙げてクイズに答えてくれました。正解した子どもにはさかなクンが描いたイラストに名前を入れてプレゼントされたほか、はずれた子どもにもさかなクンCDがプレゼントされたことから子ども達は大喜びでした。

さかなクンのイラストはご存じの通りとても上手で、描きながら魚の特徴などをモノマネしながら説明してくださいました。子ども達だけでなく引率者や保護者の方々も興味津々にさかなクンの講座に注目していました。

質問タイムでは、子どもから「トビウオの事を教えて欲しい！」との質問があり、さかなクンからトビウオの特徴や跳び方などイラストを描きながら一生懸命教えていただきました。さかなクン夢中になりすぎて少し時間をオーバーしてしまいました。

最後にさかなクンと子ども達で記念写真を撮りましたが、子ども達はもっとさかなクンと一緒にいたかったのか名残惜しそうだったのが印象的でした。

さかなクンありがとうございましたー！



## ■ 世界に一つだけの水槽をデザインしよう

こちらの水槽企画は、あらかじめ用意された水槽に土、石、苔、水草、流木等を使い、世界に1つだけのアクアリウム、アクアテラリウム水槽をデザインする今年から始まったイベントです。

理科・生物離れがささやかれる昨今、水槽をデザインすることによって、子どもたちに生物の美しさ、楽しさ、自然の大切さを味わってもらい、小さな自然を身近に感じることで、好奇心、観察力、想像力、発想力を育てることを目的としています。

子ども達に直接「水産業」を教えるよりも、私がそうであったように、水槽などの身近にある魚や自然に触れることにより、魚やその生態、自然環境などに目を向けて貰いたいとの思いと、「魚って可愛いし、楽しい！」ということを感じて欲しい、きっとその方が子ども達も楽しいと思い企画しました。

講師にアクアリウムショップ「An aquarium.」の志藤範行代表をお招きし、水産庁職員のアクアリストたちと協力して2日間全5講演を実施しました。

協力企業として、An aquarium.と神畑養魚株式会社に協力いただいたほか、アクアリウム業界や各種メディアにも取材いただきました。

今年初めてのイベントでしたので、当初は子ども達が来てくれるのだろうかかと心配しましたが、その心配はすぐに消えました。農林水産省正面玄関の開門とともに、あっという間に整理券が無くなってしまいました。次の整理券まで最大2時間30分も並ぶ程の大盛況でした。

水槽を作りながら、綺麗にデザインするコツ、魚が長生きするための管理方法や生き物を飼うことの責任について話をしたほか、生き物の美しさ、自然の大切さ、環境問題等についても話をしました。

子ども達からは「アイデアがいっぱい出てきて楽しかった。またやりたい!」、「空の水槽が段々と出来ていくのが嬉しかった」、「家でもやりたい!」などと、とても楽しかったコメントをいただきました。

また、保護者や引率者の方々からも、「こども達がすごく夢中になっていてビックリ」、「こどもより夢中になってしまった」、「管理が大変という先入観があったが意外と簡単に管理維持できることが分かった」、「今日の授業を踏まえて自宅にある水槽をもう一度作り直したい」、「ただ水槽を作るだけでなく、環境教育や倫理教育もしてもらってありがたい」などと、子ども達と一緒に楽しんでいただけたようでした。

また、もっとも上手に作ってくれた方には水産庁長官賞を授与することとしており、子ども達の作る作品のレベルの高さに志藤代表含めた審査員はビックリし、審査が難航しましたが、東京都在住の北川要（かなめ）さん・鈴木悠真（ゆうま）さんコンビの作品に水産庁長官賞を授与することを決定しました。

アクアリウム・アクアテラリウムの可能性を感じた2日間でした。

## ■ 水産加工品を知ろう!

「水産加工品を知ろう!」では、子どもたちに水産加工品について理解を深めてもらうことを目的として鰹節削り体験を実施しました。子どもたちに手回し型の鰹節削り機を回して鰹節を削ってもらい、削った鰹節やパンフレット、水産加工品のお菓子等が入ったお土産を持って帰ってもらうというものです。

子どもたちは、堅い鰹節を削るのに苦戦しつつも、子ども同士で競争したり、大人に手伝ってもらいながら一生懸命削り機を回したりして楽しみ、削り終わった沢山の鰹節を見て満足そうな印象でした。また、今年からは、鰹節以外の節の展示も行っており、子どもたちは見慣れないサバ節やマグロ節などに戸惑いを見せつつも、触れて堅さや香りを確かめていました。

8月7日、8日の2日間とも開場から終了時まで途切れることなく行列ができる程の人気のため、1日目約400人、2日目約500人の子どもたちに鰹節削りを体験してもらいました。



鰹節削りを楽しむ子どもたち

## ■ クジラについて学ぼう！

8階で中央エレベーターを降りると、そこには大きなクジラのバルーンが。今年新調したクジラバルーンは来場者の目を惹き、その効果もあってたくさんの方々に「クジラについて学ぼう！」ブースへ来場いただきました。

本ブースでは、クジラの標本や模型、パネルのほか、3択クイズや塗り絵コーナーなど、子供たちが楽しみながらクジラについて学んでもらえるような展示を行いました。

特に今年初めて設置した塗り絵コーナーでは、ゆるキャラの「バレニンちゃん」の塗り絵を楽しんだ後、タブレットを使って3D映像のバレニンちゃんゲームを楽しんでもらいました。さらに、塗り絵で遊んでくれた子供たちには、夏休みの自由研究にぴったりの本物のクロミンククジラのひげをプレゼント！この珍しいプレゼントに大人も興味津々の様子で、喜んで持ち帰っていただきました。

また、ゆるキャラ「バレニンちゃん」もはるばる遠い海から遊びにやってきてくれました。常にたくさんの子供たちに囲まれ、一緒に記念写真に収まるなど、バレニンちゃんは子供たちに大人気でした！

お昼時には、クジラの竜田揚げが振る舞われました。ほのかに香るカレー風味の味付けで、子供にも大人にも大好評でした。これをきっかけに、クジラが子供たちの好物になって欲しいと思います。

なお、今年は瀬戸内海漁業調整事務所や沖縄総合事務局で開催された子ども見学デーでもクジラを学ぶコーナーを設置していただきました。

イベントを通して、子供たちや保護者の皆様がクジラについて理解を深めていただく良い機会になれば嬉しく思います。



## ■ 令和はアナゴで！

「令和はアナゴで！」は、子供たちにアナゴに親しんでもらうために、日本アナゴ協会が初めて参加したブースです。

一般社団法人日本アナゴ協会は、アナゴに対する理解を深め、消費を拡大し、ひいてはアナゴに関係する事業者全体の活性化に繋がっていくように！という思いで設立された協会です。

イベント当日は、キャラクターのアナゴちゃんをモチーフとしたうちやサンバイザーの配布を行い、「暑い夏にぴったり！」と来場者の方々に気に入っていただけました。また、「令和はアナゴで！」という楽曲に合わせたダンスの披露もあり、終始とても賑わっていました。また、アナゴに関するアンケートを実施し、約500名の方々に協力いただきました。なお、アンケートにお答えいただいた方には、抽選で後日協会より冷凍煮穴子のプレゼントが予定されています。

2日間のイベントは本当に楽しく、子供達も大いに盛り上がり上がってくれました。



## ■ 漁業取締官になろう！

「漁業取締官になろう！」のブースでは、来場者に展示やパンフレットを用いて漁業取締活動について紹介したほか、主に子供たちを対象に、取締船の制服や漁業監督官の特殊装備を着用しての記念撮影を行いました。また、ブース外の廊下では、全取締船44隻の写真を展示しました。

中でも、記念撮影は多くの来場者の方から興味を持っていただき、時折長い行列ができるほどの人気振りでした。特殊装備を着用して格好良くなった子や制服を着て凛々になった子、そんな子供たちを撮る大人たち。記念撮影に参加した全ての人が笑顔で嬉しそうにしていたことが印象的でした。参加者の皆さんにとって、夏休みの楽しい思い出の一コマになってもらえていれば、私たちスタッフ



ちびっ子船長・ちびっ子漁業監督官の記念撮影



特殊装備品試着のお手伝い

も嬉しく思います。

また、初めは記念撮影のためにブースにいらした方の中にも、撮影用に展示していた実物の着色弾発射装置やヘルメットに触れるうちに、漁業取締りについて関心を抱いていただけた方が多数いらしたようで、「こんなに重い装備を身につけてどんなことをするの?」「海上保安庁の仕事と何が違うの?」等の質問が多数寄せられました。展示していた写真や特殊装備品を見せながら説明することで、多くの方に漁業取締り活動の内容や、それに従事する漁業監督官について知っていただけたのではないかと思います。

多くの人にとって、普段の生活の中で「漁業取締り」という言葉を聞く機会はありませんが、それだけに、多くの方に漁業取締りについて知ってもらえるきっかけとなった今回のイベントは、とても有意義なものだったと思います。2日間にわたり、多くの方々にございました。

## ■ 知って応援しよう！福島の漁業

ご存じのとおり、平成23年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故により、福島県周辺海域へ放射性物質が流出し、水産物への汚染が懸念されました。そのため政府は事故後、水産物中の放射性物質のモニタリング検査を継続して実施しており、その結果、時間とともに放射性物質の影響は徐々に軽減されていることが分かってきました。特に海産種については、直近では福島県産の魚において3年10ヶ月ぶりに基準値超過が1検体検出されたのみとなっています(2019年1月)。

このような現状を広く一般の皆様にも、子ども霞が関見学デーの機会を通じて理解していただくため、福島県に水揚げされる水産物の安全性PRを目的としてブースを出展いたしました。ブースでは、モニタリング検査結果、福島県の試験操業の取組み等が分かるパネルの展示、放射性物質の検査に関するパンフレット配布を行った他、福島で水揚げされる水産物に親しんでいただくため、子供向けに福島の水産物にまつわるクイズラリーも企画しました。

子ども霞が関見学デー当日はたくさんの子供達とその親御さん達にご来場いただき、盛況を博しました。来場者の中には事故と関連して水産物の放射性物質の状況や風評について尋ねられる方もおられましたが、福島の水産物にネガティブな意見をされる方はいらっしゃいませんでした。むしろ、「都内に福島県産の魚を購入できるお店はありますか?」と興味を持っていただく親御さんがいらしたので、イオンの一部の店舗にて福島県産の魚を常設販売する『福島鮮魚便』を紹介させていただきました。また福島県漁業協同組合連合会では、水産資源の持続的利用や生態系の保全に配慮して漁獲・生産された水産物であることを証明するマリン・エコラベル・ジャパン (MEL) 認証を取得しており、本取組についてもパネル展示いたしました。福島県の代表的な魚である『常磐もの』についてはMEL認証を取得し、資源の持続性や生態系に配慮している旨をお伝えし、理解を深めたところです。

今年はクイズラリーの景品として、おさかなマグネットを用意しました。職員が紙粘土を型取りしたハンドメイド品で、子供達にはマグネットの釣り竿で釣ってもらい、自由に色塗してもらいました。子供達が楽しそうに、真剣に取り組んでいる姿を見て、職員の苦勞が報われた気がします。

これらの取組を通じて福島の水産物の消費の後押しとなり、福島の漁業が少しでも早く回復することを切に願っています。



## ■ クイズとペーパークラフトで魚を学ぼう！

「クイズとペーパークラフトで魚を学ぼう！」では、昨年に引き続き、水産庁所管の独立行政法人である国立研究開発法人水産研究・教育機構（以下、「水産機構」）の職員が参加し、水産機構が作成しているペーパークラフトの配付やお魚クイズの設置、水産機構の刊行物である『FRA NEWS』や『おさかな瓦版』を配付し、水産機構の紹介を行いました。ペーパークラフトはマダイやインダイなど6種類を用意しましたが、その中ではカワハギが一番人気だったようです。お魚クイズはパソコンを使ってゲーム形式で楽しむことができますが、中には難しい問題もあり、親子で協力しながら楽しんでいただいている場面を見ることができました。また、水産機構には「ふっくん」、「ふーちゃん」、「あんじい」と3体のマスコットキャラクターがあり、今回は「あんじい」が来場しました。あんじいには毎年多くのこどもたちが駆け寄ってくれ、今年もたくさんのこどもたちと触れあうことができました。

今年もたくさんの方々がイベントのブースに訪れてくれました。水産や水産機構について理解を深めていただき、また、こどもたちの楽しい夏休みの思い出になってくれると良いなと思います。



## ■ 真珠を使ったイベント

日本は、世界で初めて真珠養殖に成功した養殖真珠発祥の地であり、現在、国内では愛媛県、長崎県、三重県を主要産地として盛んに真珠養殖が営まれています。

水産庁は、日本が誇るこの真珠について国民の理解を深めてもらうため、こども霞が関見学デーにおいて、平成25年度から真珠養殖に関するパネル展示や、真珠を使ったイベントを実施しています。

今年度も、三重県や愛媛県の真珠生産地の関係者の協力を得て、「真珠を使ったドアプレート製作教室」及び「真珠アクセサリーを身につけた写真撮影会」を実施しました。特に「真珠を使ったドアプレート製作教室」には、2日間で累計460人（子ども及びその引率者を含む）と大勢の方にご参加いただきました。このドアプレート製作教室では、真珠ができるまでの工程を勉強したあと、「規格外の真珠※」を使ったドアプレートを製作する内容になっています。

参加した子ども達は、夢中でドアプレートの製作に取り組んでいました。また、真珠がどのようにできるかについて、夏休みの自由研究のテーマにしたいと、スタッフに熱心に質問する子どももいらっしゃいました。これほどたくさんの真珠に触れたのは初めてという方が多く、イベントを終えた参加者の皆さんは、満足そうな表情で完成したドアプレートを持ち帰っていました。

また、写真撮影会では、美しい真珠のネックレスや指輪などを身につけて、楽しそうに写真を撮られている子ども達の様子が印象的でした。

このイベントをきっかけに参加者が真珠に興味をもち、将来、真珠に触れる機会が多くなればイベント担当者として大変嬉しく思います。

昨今、真珠養殖業のみならず、漁業・養殖業の現場では従事者の高齢化や後継者不足が深刻化し、今回のイベントのように生産関係者が自ら水産物の普及に関する取り組みを行うことも難しくなりつつあります。そのような中、毎年真珠イベントの実施にご協力いただいている三重県、愛媛県の皆様様の様々な真珠普及の取り組みに対しては、水産庁としても引き続き応援していきたいと思っております。



真珠を使ったドアプレート製作教室



真珠アクセサリーを身につけた写真撮影会

※「規格外の真珠」……形、色、キズなどから商品にならないもので本来は処分される真珠。

## ■ 錦鯉について学ぼう！

今年も農林水産省に錦鯉がやってきました。全日本錦鯉振興会、吉田鑑賞魚販売（株）による全面協力のもと今年でなんと4回目。2日間にわたり、例年を超える多くのご家族や職員のみなさまにお越し頂きました。

錦鯉の品種や生産風景のパネル展示、パンフレットの配布とともに、大きな錦鯉2匹との触れ合いが大きな目玉。順番待ちの行列ができるほどの人気振りを見せ、今回は付き添いのご両親もお子様にも促されて一緒に触れている場面が多くみられ、4回目の展示もますますの盛り上がりを感じさせてくれました。

前回から始めた小型錦鯉の水槽展示では、優雅に泳ぐ小型錦鯉の姿に目を引かれ、足を止める方が非常に多くいらっしゃいました。水槽で飼う方法を、パンフレット片手に興味津々に聞かれる姿や、お子様と水槽のツーショット写真を思い思いに撮影する姿が印象的で、多くの方々はこちらの展示も楽しんで頂けたのではないかと思います。

今年は、錦鯉に触れていただいた皆様に、振興会が作成した錦鯉シールをプレゼントさせていただきました。かわいらしいデフォルメ錦鯉と、本物の錦鯉がシールになっています。こちらも多くの方に喜んでいただきました。

また、今回の会場では同じ室内で真珠アクセサリを身に着けた写真撮影も行われ、その相乗効果でしょうか、来場者数は昨年を大幅に上回りました。

ご来場くださった方々からは「去年も来た！」「来年も触りに来たい！」「たのしい！」など嬉しい声がたくさん聞こえてきました。長時間の対応に、関係者も終了時は疲れが見えていましたが、おかげさまで今回の錦鯉も大成功に終わることができました。確実に、こども霞が関見学デーに錦鯉が来るという情報が浸透しつつあると一担当者個人として確信しております。今年の大盛況振りを大変嬉しく思います。

クールジャパンの主要製品の1つとして、海外での人気が高まる一方の錦鯉。その反面、国内での需要喚起が今後の課題となっています。今回のような子ども達を対象とした継続的な取組が、少しでも国内需要の増大に繋がってくれることを期待しています。

## ■ 漁村に行こう！漁村に泊まろう！

水産庁では新鮮な海の幸を食べたり、海で遊んだりなど都会ではなかなか体験できないことを楽しむため、漁村に行き、泊まって、楽しむことを「渚泊（なぎさはく）」として推進しています。

この「渚泊」や漁村の魅力を広く知ってもらうために、ブース内では全国各地から集まった漁村情報パンフレットの配布やポスターの掲示、漁村を疑似体験できるVR（バーチャルリアリティ）コーナーなどを設置し、全国各地の漁村の魅力をPRしました。また、7日（水）と8日（木）には「渚泊」のPRの応援にサンリオピューロランドからキティちゃんが駆けつけてくれるなど会場は華やかなものとなりました。

1日3回行われたキティちゃんとのグリーティングでは、「渚泊」とサンリオがコラボした壁紙の前でキティちゃんと写真撮影や触れ合いが行われ、開始前にはグリーティング待ちの列ができていました。特に、小さな女の子やその保護者が多く、普段あまり漁村に接点のない女性や子供にも「渚泊」に接してもらいうい機会となりました。また、ブース内で「渚泊」とサンリオのコラボステッカーが配布されるなどキティちゃんを通じて「渚泊」を広くPRすることができました。



VRコーナーでは、「北海道寿都町」や「宮城県石巻市」などの町の様子を疑似体験できるようになっており、VRゴーグルを見つけた子供たちは「やってみてみたい!」と興味津々の様子。体験中の子供たちは周囲を見渡したり、手を伸ばしてみたり、また立ち上がって他の子供にぶつかりそうになる子もいるなど夢中になっていました。体験後には「おもしろかった!」「もう1回やりたい!」など新鮮な驚きや楽しみを感じてくれたようです。

「漁村に行こう!漁村に泊まろう!」ブースを訪れたことをきっかけに、少しでも漁村に興味をもってもらい、旅行先の選択肢の一つとなることに期待したいです。



## 復興支援マルシェ

農林水産省では、各地域の復興を強く後押しするため、こども霞が関見学デーの期間に合わせ、東日本大震災等で被災した県の農産物や、震災後に未だに輸入規制措置を受けている青森・岩手・宮城・福島・茨城・千葉・栃木・群馬の8県産の水産物を販売する、「復興支援マルシェ」を開催しました。

全国漁業協同組合連合会と各出品県の協力の下、各県の名物がブースを彩ったマルシェには、2日間で述べ1400人もの方に来場いただきました。

農林水産省では、復興に向けて努力されてきた被災地の水産業者の気持ちに寄り添い、希望を持って漁業・加工流通業に取り組める環境の整備に取り組んでまいります。



## 編集後記 窓辺のカーテン

霞が関では、8月7日、8日に「こども霞が関見学デー」が開催されました。今年も農林水産省の来場者数が1番になり、水産庁のイベントにもたくさん方に来ていただきました。各イベント会場では、子どもたちの元気に包まれるとともに、我々職員もその元気を分けて貰った2日間でした。

「漁政の窓」では、今後も皆様に水産庁施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご意見やご質問がありましたら、以下にお願いいたします。

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111 (内線6505)

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>

水産庁施策情報誌 漁政の窓

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>